

京都・長岡宮跡（北辺官衙）

1	所在地	一 京都府向田市森本町下森本
2	調査期間	二 同市寺戸町東野辺
3	発掘機関	一 一九七〇年（昭45）四月～五月
4	調査担当者	二 一九七〇年七月～八月
5	遺跡の種類	京都府教育委員会
6	遺跡の年代	一 長岡京期（七八四～七九四年）、 二 遺跡及び木簡出土遺構の概要
7	都城跡	京都

ら南東へ流れる幅五・六mの小川、調査地東北部の直径一〇〇m以上の沼、掘立柱建物一棟を検出した。

調査地は、長岡宮北辺官衙（南部）の南端中央に位置する。長岡京時期の遺構は、北辺官衙区画の南辺を限る溝と柵列三条の他、前後二期にわたる建物群を検出した。前期の建物遺構には、南面席付礎石建物一棟、掘立柱建物一棟、後期には掘立柱建物三棟がある。

後期の建物の掘形の一つをえぐって後世の土坑状遺構があり、木簡はその中から用途不明の異形鉄器と共に一点出土した。長さ六一cmの杭状木製品の上部に墨書したもので、釈読は困難である。本遺構の時期については、他との切り合い関係が認められず、決定できない。現在この杭状木製品は所在が不明で、今回新たな調査を加えることはできなかつた。

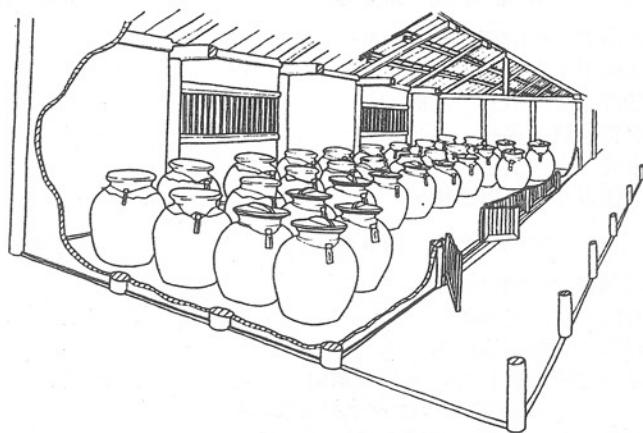
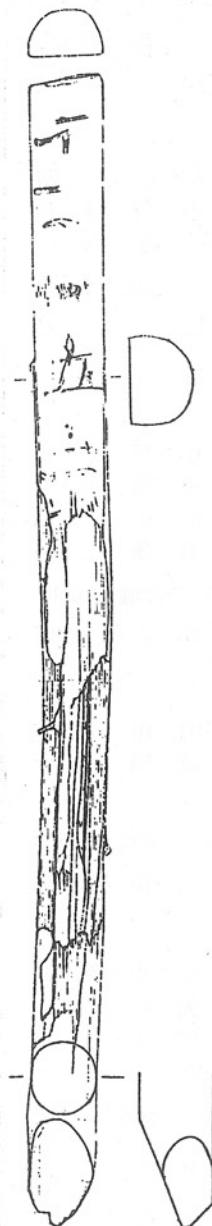
## 8 木簡の狀文・内容

(1) 「八条四甕納米三斛九斗」

調査地は、長岡宮北辺官衙（南部）に位置する。付近は西から東に石田川の開析谷が延びて低湿地があり、宮域ではほぼ唯一の木簡出土可能地帯となっている。



(京都市南部)



須恵器大甕を据えつけた倉庫推定復元図(木村泰彦氏作図)

「三斛九斗」は現量一石五斗六升(約二八〇㍑)で、長岡京期に使用された須恵器大甕の一タイプにこの容量のものがある。米は醸造用と考えられている。右京七条二坊五町で須恵器大甕据えつけ跡と推定される整然と並んだ円穴を有する大規模建物が検出されており、この木簡の表記を裏付けるものであろう。

## 二 北辺官衙(▽地区 宮第三三次調査)

(1)

610×39×38 065

### 9 関係文献

京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報』(一九七一年)  
向日市教育委員会『長岡京木簡一』(一九八四年)

(清水みき)